



4.3

2030年までに、全ての人が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。

大西 明雄

附属病院

口腔診断・総合診療科

医療職養成課程における学生の不安傾向に関するエビデンスで教育機会損失をふせぐ

教科書による知識だけでなく、歯科衛生士として身につけるべき知識・技能・コミュニケーション能力や態度を習得するとともに、高い倫理観の醸成を行うためには、患者さんに同意を得て行う臨床実習は非常に重要な学習の場です。しかしながら、一部の学生は毎年必ず実習中に気分が悪くなったり、倒れたりすることがあるため、学習機会の喪失につながってしまいます。学生不安傾向、口腔内湿潤度および睡眠調査などのデータを事前に捉えることで、歯科衛生士臨床実習における学生の不安の変化を明らかにし、性格特性および学業成績との関連なども解明し指導に生かすことで、公平な実習教育を目指しSDGsへ貢献できればと考えております。



message

地道に持続可能な社会実現のため、臨床では使い捨てのものを削減し効率的な使用促進、学生の安定した教育のための調査、市民としてはゴミの分別、本大学職員としては清掃活動による大学周辺のゴミの削減など微力ではあるが実施していることで社会貢献できればと考えています。